

藤里館 大学生2人職業体験

白神の価値、魅力伝える人に

藤里町にある白神山地世界遺産センター・藤里館が、インターンシップ（職業体験）でノースアジア大（秋田市）の学生2人を受け入れ、今年で世界自然遺産登録30周年の白神山地の価値や魅力を伝えるとともに、地域振興に関わる人材になってもらえるよう期待

を寄せている。

藤里館は平成17年以降、インターンシップに対応。11日まで5日間の日程で藤里館を訪れているのは、いずれもノースアジア大法学部国際学科3年の伊藤杏梨さん（20）、山内羽衣さん（21）。2人は観光分野についても学んでおり、八峰町の留山を訪れたこともあるという。

白神山地に理解を深めてもらう目的で2人に岳岱自然観察教育林を案内した藤里館の自然アドバイザー・白鳥万里さん（24）は、巨木「400年ブナ」の倒伏によって林冠が途切れるように空間（林冠ギャップ）が生じ、若い木々により光が当たるようになって後継樹が成長していく過程を紹介し、「森という大きな生きもので言えば、歯の生え変わ

白神山地世界遺産センター・藤里館がインターンシップで大学生を受け入れ。岳岱自然観察教育林を案内する自然アドバイザーの白鳥さん（左）

りのようだ」と説明。また、「訪れた人から目の前の景色について『きれい』と言ってもらえることもうれしいが、今は目に見えない将来の森の姿なども解説し、『白神山地にまた来たい』と思ってもらえるように取り組んでいる」と自然アドバイザーとしての姿勢を伝えた。

2人は町内の宿泊施設で寝泊まりし、藤里館の催しを手伝い、白神山地の魅力伝えるパンフレットや動画の作製などにも挑戦。伊藤さんは「秋田県内で生活していても白神山地について深く知らない人も多いはず。若い世代はSNS（インターネット交流サイト）で情報を集める人も多い。情報発信の在り方を考えた」と思った」と話し、山内さんも「白神山地が世界自然遺産であることを知って

いても、白神山地の何が評価されているかを分らない人もいると思う。改めて物事を知る、伝える大切さを感じた。藤里館での経験を今後の職業選択に役立てていきたい」と語った。

白鳥さんは「人の視点の分だけ、白神山地で感じる魅力があるはず。白神山地に親しみをもち、関わってもらえたら、うれしい」と話した。



白神山地世界遺産センター・藤里館がインターンシップで大学生を受け入れ。岳岱自然観察教育林を案内する自然アドバイザーの白鳥さん（左）

白神山地に理解を深めてもらう目的で2人に岳岱自然観察教育林を案内した藤里館の自然アドバイザー・白鳥万里さん（24）は、巨木「400年ブナ」の倒伏によって林冠が途切れるように空間（林冠ギャップ）が生じ、若い木々により光が当たるようになって後継樹が成長していく過程を紹介し、「森という大きな生きもので言えば、歯の生え変わ